

# 古文書整理 地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：清水萌花 鈴木美香 高橋駿輔 中澤舞 増田菜々実 村松明紀

首藤結香 船附藍 増田美咲 松島萌夏 村田さくら 渡邊香音

## 1 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する 7,000 点余にのぼる未整理文書の整理・調査を継続的に行うものである。

殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任したほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。本文書群は家史料としての価値だけではなく、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えるとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

## 2 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を継続的に行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

## 3 研究の内容

殿岡家には、現在、茶箱類 41 箱とタンスなどに収納された未整理文書が約 7,000 点余ある。これらの文書を誰でも利用することができるように、目録を作成する。目録作成にあたっては、収納単位ごとに簡単な保管情報の記録を作成した上で、文書を 1 点ごとに番号を付した中性紙封筒へ収納する。文書の内容や年月日・作成者・宛先などの情報を読み取って目録用紙に記入し、その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。調査に際しては、卒業生や地域の学芸員などの協力を得つつ実施する。

調査をすすめる中で、殿岡家文書の分析をおこなう。調査中において注目すべき史料を確認しつつ、各人が興味を持った文書の翻刻や報告を行う機会を設ける。



整理済み文書

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

文書群の規模が大きいので、長期間にわたる調査が必要となる。5年目にあたる今回も未整理分の史料の目録を順次作成する。コロナウイルス感染症予防のため、前期中は史料を大学に借り出し土・日曜日を利用して調査をおこなう予定である。後期には川根本町での調査やフィールドワークにもとりくむ。あわせて、川根本町の中学生や高校生が直接古文書に触れて地域の歴史を学ぶ機会を設けるなどして、調査成果の地域還元をはかる。

### (2) 実際の内容

#### A：一部修正

文書調査は新型コロナウイルスやインフルエンザ防止の観点から、後期においても現地での合宿調査は行わず、大学に史料を借り出して行った。調査は7月1・2日、7月22・23日、10月14日、11月11日に行い、12月からは講義終了後の時間を利用して、ゼミごとに調査を実施した。

調査対象の史料は収納場所・収納単位ごとに番号を付しており（A-1～5、B-1～41、C-1）、今年度はそのうちB-8、22、24、26、28～29、31～34の調査を実施した。現地での合宿調査を行わないことにしたため、9月に文書群の状況を理解するために現地に赴き、殿岡家において文書の保管状況を確認した。そのほか川根本町資料館やまびこと千頭地域の見学をおこなった。

12月10日には川根本町総合支所において、地域の方々に向けた「千頭殿岡家・下泉勝山家古文書調査報告会」（主催：川根本町・静岡文化芸術大学・駿遠三歴史資料調査会）をおこなった。報告では、学生2名が「殿岡家文書調査について」と題し、殿岡家文書調査の概要説明と今年度調査史料のなかから「観天寺千頭観音講」に関する史料を紹介した。このほか、学外協力者による3本の報告と古文書調査体験ワークショップに参加した。

なお、当初予定をしていた川根本町の中高生との古文書ワークショップについては、実施できなかった。



報告の様子

千年の学校 公開講座

## 千頭殿岡家・下泉勝山家古文書調査報告会

2023年  
日時 12月10日 13:30-16:30  
川根本町総合支所 2階会議室（川根本町千頭1183-1）  
※申込不要・参加無料

**第1部** 千頭 殿岡家文書 13:30～14:20  
「殿岡家文書調査について」報告者：静岡文化芸術大学 首藤結希・殿附藍  
「明治末の川根青年大会と殿岡漱石」報告者：豊橋市図書館 岡村 龍男

**第2部** 下泉 勝山家文書 14:30～15:40  
「勝山家文書調査について」報告者：豊橋市図書館 岡村 龍男  
「江戸時代、下泉村の予算 —「村入用儀」を読む—」報告者：川崎市市民ミュージアム 菊池 悠介

自由参加 古文書調査体験ワークショップ 15:50～16:20

主催 川根本町・静岡文化芸術大学・駿遠三歴史資料調査会(仮称) 協力 川根本町史研究会

問合せ 川根本町社会教育課 TEL:0547-58-7080

【千年の学校とは】  
川根本町全体をキャンパスと捉え、町の歴史や自然などを町民が学び深く知ることで、町に誇りや自信を持ち、町民が主体となった地域活動やまちづくりを実現することを目的に実施しています。

報告会チラシ

### (3)実績・成果と課題

今年度作成した目録は、約 1700 点であった。各単位の点数と収納単位ごとの主な内容は下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられたりしているため、枝番号まで含めると( )内の点数となる。

B- 8-1~50 (653 点・継続分)

B-22-1~220 (295 点) 御大礼関係 (昭和 3 年)、千頭郵便局関係 (昭和~大正)

B-24-1~19 (152 点) 借用証文他金銭関係、茶仕切書 (明治 30 年)、帝国軍人会・愛国婦人会

B-26-1~44 (118 点) 藤川郵便局設置関係 (明治 30 年代)、書簡類

B-28-1~5 (5 点) 葉書 (大正~昭和)

B-29-1~64 (94 点) 観天寺千頭観音講 (明治 43 年)、古筆切、和歌短冊

B-31-1~6 (6 点) 物品類

B-32-1~75 (104 点) 和洋女子専門学校教科書・ノート/殿岡功子・典子関係 (昭和 2~25 年)

B-33-1~139 (144 点) 服飾関係雑誌/殿岡功子関係 (昭和 8~20 年代)

B-34-1~3 (333 点・調査途中)



B-22 文書収納状況



B-29 文書収納状況

川根本町において行った「千頭殿岡家・下泉勝山家古文書調査報告会」(12月10日)では、現地で報告を行うことにより地域の理解を深めるとともに、地域の方々と交流する機会となった。

### (4)今後の改善点や対策

報告会の準備においては、文書の読み取りに時間を要し現地での確認調査を実施できなかった。今後、報告会の他に古文書の展示なども計画しているため、古文書調査とは別に十分な研究時間を設けたい。中高生との古文書ワークショップの計画を含め、年度当初に企画の実施時期を決め、確実に実行できるようにする。

## 5 課題提出者・地域への提言

報告会では50名ほどの参加があり、地域の歴史に対する関心の高さが伺われた。また、古文書所蔵者は親戚の方々と一緒に、積極的に古文書の調査・保存活動に取り組んでいる。このような意識や活動が地域全体の歴史史料の保存・活用につながるように、ともに考えさせていただきたい。特に個人で古文書を守っていくことが困難な状況になっていくことが予想されることから、自治体の積極的な取り組みをお願いしたい。

## 6 課題提出者・地域からの評価

今年度は新たに1,700点もの文書の整理および目録データの作成をいただいたとのこと感謝しております。

本年度の新たな取組みとして地元住民向けに調査報告会を開催し、学生様にこれまでの調査の進捗や成果、調査の過程で知り得た事項を報告していただきました。町内外から約50名の参加者が集う中、堂々とした様子で発表され、参加者の方たちの興味深く聞き入っている姿が多く見られました。参加した町民から今回の報告会を評価する声を多くいただき、調査成果の地域還元が実現できたものと感じております。調査のみならず、地域の歴史を学ぶ機会を提供いただき、町にとって有意義な活動を継続して実施していただいておりますこと感謝しております。

(川根本町教育委員会社会教育課)